

特定非営利活動法人緑園都市コミュニティ協会定款

Ver 1.0 2024年4月

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人緑園都市コミュニティ協会という。

また、略称をNPO法人RCAとし、英文では、「NPO RCA」と表示する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を神奈川県横浜市泉区緑園一丁目1番10号に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は“緑園都市まちづくり憲章”にもとづき、①別添図面に表示する緑園地区の住民に対して、②まちづくりに関する事業を行い、③快適で安全な居住環境の確保と住民相互の社会的・経済的地位等の向上、促進を図ることを目的とする。

“緑園都市まちづくり憲章”

1. わたしたちはこの街を緑豊かな“緑園都市”と名づけます。
2. わたしたちはこの街に緑園都市コミュニティ協会 (Ryokuen-Toshi Community Association) を昭和62年4月1日に設立します。
3. わたしたちは緑園都市コミュニティ協会 (R.C.A.) を通じてこの街の街づくりに主体的に参加します。
4. わたしたちは緑園都市コミュニティ協会 (R.C.A.) のクラブライフを通じて、この街の人と人、人と自然のふれあいを大切にします。
5. わたしたちは「緑園都市コミュニティ協定」を定め、この街の快適で安全な居住環境の創造と生活の豊かさの実現を目指します。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

1. まちづくりの推進を図る活動
2. 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
3. 環境の保全を図る活動
4. 災害救援活動
5. 地域安全活動
6. 国際協力の活動
7. 子どもの健全育成を図る活動
8. 情報化社会の発展を図る活動
9. 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
10. 前各号に掲げる活動に準ずる活動として都道府県又は指定都市の条例で定める活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。

- (1) クラブハウス、自治会館、案内板等の共用施設の維持管理事業。

- (2) 緑化運動の推進事業。
 - (3) 国際交流事業。
 - (4) 広報事業。
 - (5) 各種セミナー、イベントの開催等のコミュニティ事業。
 - (6) ホームセキュリティサービス利用及びR.C.A.防犯カメラ運用による住宅地の安全維持事業
 - (7) 有線テレビジョン放送サービス利用による住宅地景観維持および利便の増進事業
 - (8) 街並み・建築デザイン等の住宅地の景観維持に関するガイドライン等の設定、指導推進事業。
 - (9) その他この法人の目的達成に必要なまたは有用な事業。
2. この法人は、前項各号の事業を行うにあたり必要と認められるときは、緑園連合自治会ならびに緑園各丁目自治会、及び関連組織等と協力して活動を執行するものとする。
3. この法人は、第1項各号の事業の一部を第三者に委託し、また請負わせて執行することができる。

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の3種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法(以下「法」という。)上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体で議決権を有する。
 - (2) 一般会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体であり議決権を有しない。
 - (3) 特別会員 相鉄グループ(相鉄ホールディング株式会社を持ち株会社とする相鉄グループ各社)であり議決権を有しない。
 - (4) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、活動を支援するために入会した個人及び団体であり議決権を有しない
2. 上記(1)から(4)は反社会的勢力に該当しない者であること

(入会)

第7条 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとし、理事長は、そのものが第6条に掲げる条件に適合すると認めるときは、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

- 2 理事長は、前項のものを入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(会費)

第8条 会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員は、以下事由によりその資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会において正会員総数の4分の3以上の

議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
 - (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- (提出金品の不返還)

第12条 既納の会費及びその他の拠出金品は、返還しない。

第4章 役員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 10人以上24人以下
- (2) 監事 2人
 1. 総会において正会員の中から選出された者1名
 2. 特別会員が指名した者1名

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 理事の互選により以下の者を選任する。

理事長	1名
副理事長	2名
会計担当理事	2名
総務担当理事	2名

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を執行する。
3. 会計担当理事は、会費等収入金の保管、出納、収支決算等の会計業務を行う。
4. 総務担当理事は、理事会および総会の議事録を作成するほか、この法人の総務を担当する。
5. 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 6 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の規定にかかわらず、任期満了前に、就任後2事業年度が終了した後の総会において後任の役員が選任された場合には、当該総会が終結するまでを任期とし、また、任期満了後後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。
- 3 補欠のため、又は増員によって就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(解任)

第17条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決により、これを解任することができる。この場合、その役員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 職務の遂行に堪えない状況にあると認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

第18条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第5章 総会

(種別)

第19条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。

(構成)

第20条 総会は、正会員をもって構成する。

(機能)

第21条 総会は、次の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散
- (3) 合併
- (4) 事業計画及び予算に関する事項
- (5) 事業報告及び決算に関する事項
- (6) 役員の選任等に関する事項
- (7) 会費に関する事項
- (8) 長期借入金に関する事項
- (9) 事務局の組織等に関する事項
- (10) その他この法人の運営に関する重要事項

(開催)

第22条 通常総会は、会計年度終了後2か月以内に開催する。

2 臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。

(2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。

(3) 第15条第6項第4号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

第23条 総会は、前条第2項第3号の場合を除き、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも14日前までに通知しなければならない。

4 理事長は、緊急を要する場合においては、理事会の承認を得て、5日間を下回らない範囲において第3項の期間を短縮することができる。

(議長)

第24条 総会の議長および議事録署名人(2名)は、出席した正会員の中から理事長が指名する。

ただし、第23条第4項により招集された総会においては、出席者の互選により議長を選出し、議事録作成者および議事録署名人(2名)は当該議長が出席者の中からこれを指名するものとする。

(定足数)

第25条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第26条 総会における議決事項は、第23条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の議決権の過半数をもって決する。

(議決権等)

第27条 正会員は各1個の議決権を有する。

2 やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、第25条、前条第2項、次条第1項及び第48条の適用については、総会に出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることはできない。

(議事録)

第28条 総会議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数(書面若しくは電磁的方法による表決者又は議決委任者がある場合にあつては、その数を付記すること。)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録作成者、議事録署名人2人以上、が作成し署名又は記名押印しなければならない。

3 前2項の規定にかかわらず、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容
- (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
- (3) 総会の決議があったものとみなされた日
- (4) 議事録の作成に係る職務者の氏

第6章 理事会

(構成)

第29条 理事会は、理事をもって構成する。

(専門委員会)

第30条 理事会は、この法人を運営する上で必要な事項につき、各種の専門委員会を設けることができる。

2 専門委員会は、理事会から諮問を受けた事項について審議し理事会に答申するほか、理事会から付託された事項について執行する。

3 専門委員会の委員は理事会がこれを任命する。

4 専門委員会の組織および運営方法については、細則でこれを定める。

(機能)

第31条 理事会は、この定款で定めるもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

第32条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の5分の1以上から会議の目的である事項を記載した書面又は電磁的方法をもって招集の請求があったとき。
- (3) 第15条第6項第4号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第33条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、少なくとも7日前までに通知しなければならない。

(議長)

第34条 理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

(定足数)

第35条 理事会は、理事総数の過半数の出席がなければ開会することができない。

(議決)

第36条 理事会における議決事項は、原則として第33条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、理事会で承認された場合を除く

2 理事会の議事は、出席理事の過半数をもって決する。

(議決権等)

第 37 条 各理事は各 1 個の議決権を有する。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって議決権を行使または他の正社員に委任することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、第 35 条及び次条第 2 項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 38 条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名(書面又は電磁的方法による表決者にあつては、その旨を付記すること。)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が署名又は記名押印しなければならない。

第 7 章 資産及び会計

(資産の構成)

第 39 条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

(1) 設立当初の財産目録に記載された資産

(2) 会費

(3) 寄付金品

(4) 財産から生じる収益

(5) 事業に伴う収益

(6) その他の収益

(資産の区分)

第 40 条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産の 1 種とする。

(資産の管理)

第 41 条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

(会計の原則)

第 42 条 この法人の会計は、法第 27 条各号に掲げる原則に従って行うものとする。

(この法人の運営費用)

第 43 条 この法人の運営に関する費用は、会費等の収入により支弁する。

(会費等の納入)

第 44 条 正会員、一般会員、賛助会員および特別会員は、この法人が第 4 条の事業を遂行するために要する費用、この法人の通常の業務の遂行に要する費用、臨時に要する費用その他この法人の運営に

要する費用に充てるため、月額会費および臨時会費をこの法人に納入するものとする。

2 会員は、納入した会費等について返還を請求することができないものとする。

(月額会費等の納入方法)

第45条 正会員および一般会員の月額会費の納入方法は、原則として毎年4月1日から同年9月末日までの6ヶ月分を同年4月末日までに、毎年10月1日から翌年3月末日までの6ヶ月分を同年10月末日までにこの法人の指定する方法により納入するものとする。

2 前項の各期間の途中で正会員となった者は、入会日の属する月の翌月分より最初に到来する9月または3月までの会費を前項の方法により前納するものとする。

(会計の区分)

第46条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業に関する会計の1種とする。

(事業計画及び予算)

第47条 この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第48条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(事業報告及び決算)

第49条 この法人の事業報告及び決算は、毎事業年度ごとに理事長が事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等として作成し、監事の監査を経て、その年度終了後2か月以内に総会の承認を得なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(事業年度)

第50条 この法人の事業年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(長期借入金)

第51条 この法人が資金の借入をしようとするときは、その事業年度の収益をもって償還する短期借入金を除き、総会の承認を得なければならない。

第8章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第52条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の議決を経、かつ、法第25条第3項に掲げる事項(定款の変更)については、所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第53条 この法人は、法第31条第1項に掲げる事由により解散する。

2 法第31条第1項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 この法人が解散(破産手続開始の決定による解散方を除く。)したときの清算人は、総会において選任する場合を除き、理事が清算人となる。

(残余財産の帰属)

第54条 この法人が解散(合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。)したときに残存する財産

は、法第 11 条第 3 項に規定する法人のうちから総会において選定したものに帰属するものとする。

(合併)

第 55 条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の 4 分の 3 以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第 9 章 公告の方法

(公告の方法)

第 56 条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、貸借対照表の公告については、会報またはこの法人のホームページに掲載して行う。

第 10 章 事務局

(事務局の設置等)

第 57 条 この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を置くことができる。

2 事務局には、事務局長その他の職員を置く。

3 事務局長その他の職員は、理事長が任免する。

4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第 11 章 雑則

(細則)

第 58 条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

(定款原本等の保管および閲覧)

第 59 条 理事長は、定款原本、細則、総会および理事会議事録ならびに会員名簿を保管するものとする。

2. 理事長は、会員から理由を付した書面により請求があった場合において相当の理由があると認めるときは、前項の定款原本等を閲覧させるものとする。この場合、理事長は、閲覧の日時・場所等を指定することができる。

(理事長の勧告および指示等)

第 60 条 正会員またはその同居人が定款・細則、または総会もしくは理事会の議決に違反したとき理事長は理事会の議決を経て、その会員もしくは同居人に対しその是正等のため必要な勧告または指示を行うことができる。

2. 正会員またはその同居人が前項の行為を行った場合には、その是正等のため必要な措置を講じなければならない。

(細則)

第 61 条 この定款の実施および法人の運営につき必要な事項に関しては、総会の議決により細則を定めることができ、その改廃についても同様とする。

(定款の変更)

第 62 条 この定款は、総会の 4 分の 3 の議決権により改定することができる。

附則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

理事長	見瀬 賢悟
副理事長	加藤 統久
同	田口 明
理事	木村 宣義
監事	菅野 英夫
同	木曾 英貴
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第 16 条第 1 項の規定にかかわらず、成立の日から翌年 5 月の総会までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び予算は、第 47 条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによるものとする。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第 50 条の規定にかかわらず、成立の日から翌年 3 月 31 日までとする。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び会費は次に掲げる額とする。
 - (1) 入会金 無し
 - (2) 会費 下記

正会員 個人	月額 2 5 0 円
事業を営む者	月額 2 0 0 円
一般会員 個人	月額 1 4 0 円
事業を営む者	月額 2 0 0 円
特別会員	年間会費 9 0 万円
賛助会員	年間会費 1 万円以上